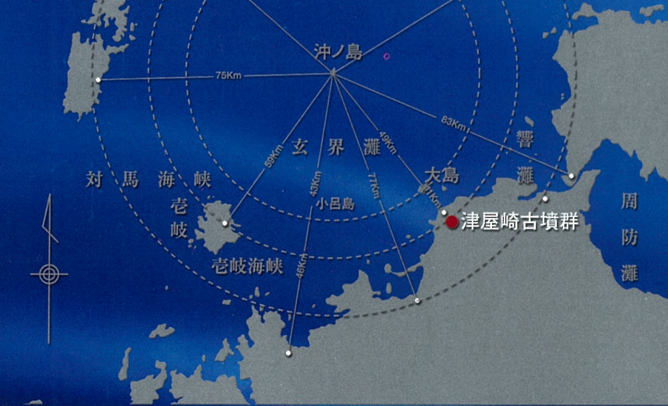


2009年1月
世界遺産暫定
リストに記載

国指定史跡

津屋崎古墳群



新原・奴山古墳群

福岡県福津市



国指定史跡「津屋崎古墳群」へのアクセス



最寄りの駅

■ JR 鹿兒島本線福岡駅

お問合せ先

〒811-3304 福岡県福津市津屋崎 1-7-1
福津市教育委員会 教育総務課 古墳公園建設係
TEL (0940) 52-4968 FAX (0940) 52-0314
E-mail bunka@city.fukutsu.lg.jp

国指定史跡「津屋崎古墳群」について

津屋崎古墳群

玄界灘に面した福津市北部の丘陵や台地上に、5世紀から7世紀にかけて築かれた古墳が、南北8km、東西2kmの範囲に分布しています。これらを総称して津屋崎古墳群と呼んでおり、前方後円墳16基、円墳43基、方墳1基からなります。約200年にわたる地方豪族の首長墓群であり、平成17年3月2日に国指定の史跡となりました。



福津市北部

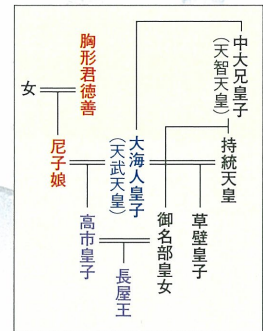
古墳群の変遷

津屋崎古墳群では保存を前提としています。そのため埋葬施設を調査しているものが少なく、表面採集遺物によって年代推定しているものもあります。古墳築造時期の決定にはさらに詳細な調査を要しますが、大型前方後円墳に注目すると、5世紀に勝浦・奴山において築造が始まり、6世紀に須多田・在自に移ります。続いて宮司・手光に7世紀の古墳が築造されます。古墳群は大筋として北から南への変遷をみることができます。

胸形君一族

かつて津屋崎古墳群は広い入り海に面していました（地図参照）。古墳群を築いた人々は、天然の港を持ち、伝統的に培った航海技術で船舶を操り、時代の要請に応え対外交渉にも深く関わって活躍したと考えられます。

津屋崎古墳群の被葬者について、文字史料などの物証は出土していません。しかし『古事記』や『日本書紀』に、三女神を祭る「筑紫の胸形君」という豪族が登場します。地理的狀況や古墳群の規模、出土品などを考え合わせると、沖ノ島祭祀に関わったと伝わる胸形君一族の墳墓群である可能性が考えられます。また、『日本書紀』には「胸形君德善が女尼子娘を納して、高市皇子命を生ませり」とあり、「胸形君德善」を宮地嶽古墳の被葬者に、近くで見つかった火葬墓の被葬者を尼子娘に当てる説もあります。



女

胸形君德善

尼子娘

高市皇子

長屋王

御名部皇女

草壁皇子

持統天皇

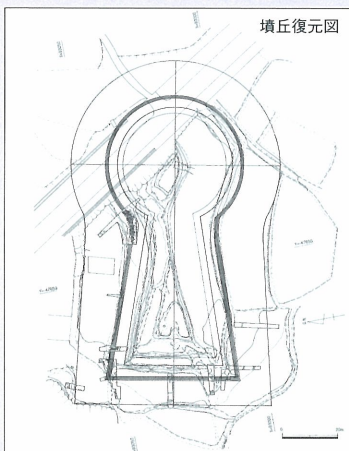
中大兄皇子

(天智天皇)

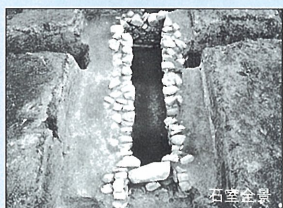
2 勝浦峯ノ畑古墳(かつうらみねのはたこふん)

5世紀中頃に造られた全長100mの前方後円墳です。後円部に古式の横穴式石室があり、石室内は壁面から天井まで赤い顔料が塗られていました。中軸線上に2本の石柱が立てられる石室は国内には例が無い構造で、朝鮮半島に類例があります。

石室内からは画文帯神鏡、内行花文鏡など8面の鏡、金銅製冠帽、鹿角装大刀40振以上、短甲、15,000点以上のガラス玉など多量の遺物が出土しています。これらの副葬品は沖ノ島7、8号遺跡にも対比できる内容であり、沖ノ島祭祀とのかかわりをうかがわせます。

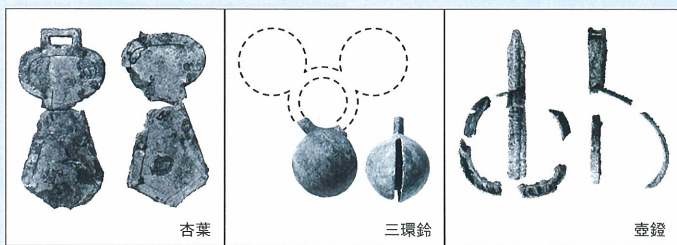


3 勝浦井ノ浦古墳(かつうらいのうらこふん)



5世紀中頃に造られた全長70mの前方後円墳です。前方部に堅穴系横口式石室(古式の横穴式石室)があり、その内部全面に赤い顔料が塗られていました。

出土遺物が豊富で、石室内から大刀、鉄矛、短甲、挂甲等の武器・武具類、三環鈴、杏葉、壺鏡などの馬具類、工具類、装身具類などが出土しました。三環鈴の出土は珍しく、馬あるいは甲冑につけて用い、地位の高さを示すものではないかと考えられています。



4 新原・奴山古墳群(しんばる・ぬやまこふんぐん)



5世紀前半から6世紀後半にかけて造られ、津屋崎古墳群の中で最も密集する古墳群です。東西800mの台地上に前方後円墳5基、方墳1基、円墳53基の計59基が発見され、41基が現存します。

22号墳は現状では円墳のように見えますが、全長80mの前方後円墳で、5世紀前半の築造です。唯一の方墳7号墳も同じ頃のもので、墳丘上に鉄斧や琥珀原石などがあり、祭壇として使われたともいわれています。

発掘調査が行われたものには1～6号墳、44・45号墳、49～59号墳があります。1号墳は全長50mの前方後円墳で、勝浦峯ノ畑古墳に似た古式の横穴式石室がありました。そのほか円墳からも皮袋型土器(5号墳)や三連甕(49号墳)など珍しい遺物が出土しています。特に44号墳の石柵をもつ横穴式石室から出土した鉋形鉄製品や国内最大の鋸などは、朝鮮半島とのつながりをうかがわせるものです。また、直径17mである21号墳の墳丘上には、鎌倉時代の板碑群があります。柱状の玄武岩を立て、仏像や梵字などを彫刻しています(福岡県指定有形文化財)。



13 宮地獄古墳(みやじだけこふん)



宮地獄神社境内の奥ノ院にある直径34mの円墳です。墳丘内部に造られた横穴式石室は全長23m、最大幅2.8m、天井高さは3.1mを測り、国内最大級の規模です。玄室の側壁に籠のような削り込みが左右一対あるほか、玄室奥は天井と両側壁が狭い構造です。7世紀前半から中頃の築造と考えられます。

昭和9年(1934)、昭和26年(1951)に古墳周辺から金銅装頭椎大刀、金銅鞍金具、金銅壺鏡、金銅透彫冠、蓋付銅鏡、銅盤、瑠璃板、瑠璃丸玉など豪華な副葬品が発見されました。また、昭和13年(1938)には近くで8世紀の火葬墓が発見され、銅壺と瑠璃壺が出土しました。これらは国宝に指定されています。



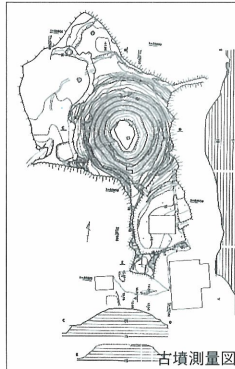
16 手光波切不動古墳(てびかなみきりふどうこふん)



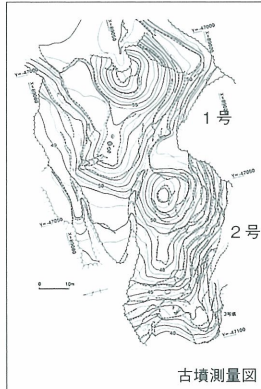
津屋崎古墳群の南端に位置する直径25m、墳丘の高さ9mの円墳です。墳丘内部の横穴式石室は全長108m、玄室高さ2mを測り、宮地獄古墳とよく似た構造です。玄室奥に石造の不動尊が祭られています。平成24年(2012)の発掘調査で、金銅製馬具、新羅土器、沖ノ島出土の祭祀土器に類似する須恵器器台などが出土しました。7世紀前半の築造と考えられます。



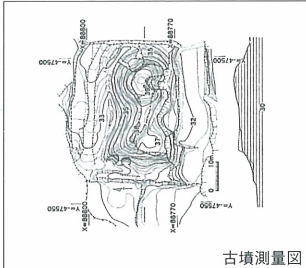
1 かつらたかはらこふんぐん **勝浦高原古墳群**
 前方後円墳1基と円墳12基からなり、11基が現存しています。11号墳は全長49mの前方後円墳です。(6世紀後半)



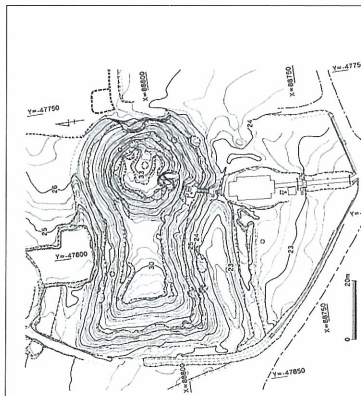
5 ゆくえおつかこふん **生家大塚古墳**
 前方部の大半を失っていますが全長73mの前方後円墳で、周りに溝と堤がめぐらされています。埴輪や須恵器が出土しています。(5世紀後半)



6 おおしおかのたにこふんぐん **大石岡ノ谷古墳群**
 1、2号墳はそれぞれ全長55m、全長43mの前方後円墳です。(6世紀後半)



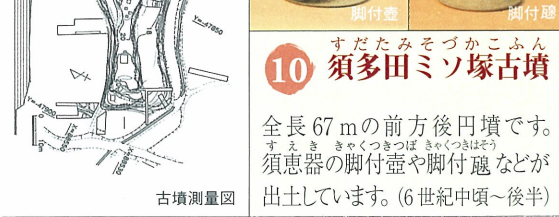
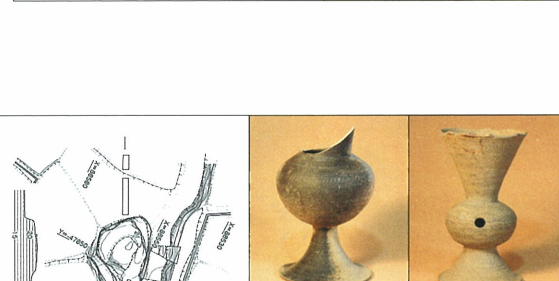
7 すだたかみのくちこふん **須多田上ノ口古墳**
 周りに溝と堤がめぐる全長43mの前方後円墳です。(5世紀後半)



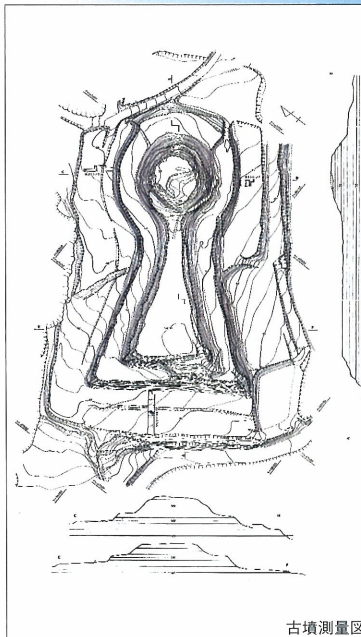
8 すだたあまふりじんじやくふん **須多田天降天神社古墳**
 全長80mの前方後円墳で、周りに溝と堤がめぐらされています。高坏形器台、円筒埴輪、形象埴輪などが出土しています。(6世紀前半)



9 すだたしものくちこふん **須多田下ノ口古墳**
 全長82.8mの前方後円墳で、周りに2重の溝がめぐらされています。須恵器の高坏や甕が出土しています。(6世紀後半)



10 すだたみそづかこふん **須多田ミソ塚古墳**
 全長67mの前方後円墳です。須恵器の脚付壺や脚付甕などが出土しています。(6世紀中頃～後半)



12 あらじつるぎづかこふん **在自剣塚古墳**
 津屋崎古墳群中最大の規模を誇る前方後円墳で全長は101.7mを測ります。須恵器の大甕や高坏形器台が出土しています。(6世紀後半)

11 すだたにたづかこふん **須多田ニタ塚古墳**
 直径33.5mを測る大型円墳で、周りに2重の溝がめぐらされています。赤い顔料が塗られた横穴式石室は、石の積み方が勝浦峯ノ畑古墳の石室に似ています。(5世紀中頃)



14 みやじいでのかみこふん **宮司井手ノ上古墳 (未指定)**
 直径26mの円墳です。墳頂部から竪穴式石室、箱式石棺、石蓋土壙墓の3つの埋葬施設がみつっています。箱式石棺からは人骨とともに短甲、刀剣類、鉄鍬、鉄製農具類などの豊富な副葬品が出土しています。(5世紀前半)なお、200m東にある手光湯ノ浦古墳群(地図中15)でも類似の埋葬施設が見つっています。(5世紀前半～6世紀前半)

- 凡 例
- 前方後円墳
 - 円墳
 - 方墳
 - 標高50m未満
 - 標高50m以上
 - 旧入り海(縄文時代の推定海岸線より)
 - 海、河川、池

